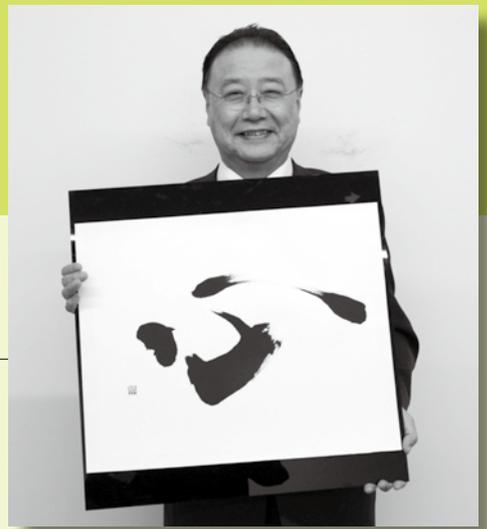


私の一文字「心」

代表幹事
櫻田 謙悟

SOMPOホールディングス
グループCEO 取締役社長



日本人の“心”が世の中のあり方を示す

会員の方が思いを込めて選んだ一字に、書家の岡西佑奈さんが命を吹き込む「私の一文字」。新体制となった今月は、代表幹事に就任された櫻田謙悟氏にご登場いただきました。

櫻田 「心の態度が人生の運命を決める」という言葉があります。「心の態度」は「気持ち」とは違います。「考え」とも「精神力」とも違う。私が初めてその言葉を聞いたとき、そもそも心に態度があると思っていなかったのが、新鮮でした。しかも、運命とは決められたものとのイメージでしたが、「人生の運命を決める」、言い換えれば「自ら生き様を決める」というのですから。何度も何度も反芻し、言葉にはものすごく大きな力があり、それが心の態度に影響し、人生を変えるのだ、と思いました。

岡西 心という漢字は、心臓の形を象った象形文字です。私は書を書くとき、自分が書の中に入っていき、感覚と、それを俯瞰して見ている感覚があります。目で見ている感覚が20%、俯瞰して見ている、つまり心で見ている感覚が80%です。今回は視覚を消したいと思い、目を瞑って100%心の目で書かせていただきました。

櫻田 聴覚に障がいがあったベートーベンが作曲したのと同じでしょうか。心眼という言葉の通り心の目で見ているのですね。

岡西 櫻田さんはこれまでのお仕事を振り返り、心の態度が大切だったと思われる体験はおありですか。

櫻田 私は辞表を出そうかと思った修羅場が3回あります。

岡西 そんなに修羅場があったんですか。

櫻田 中でも大変だったのは、合併の契約を結んだときです。2001年に米国で同時多発テロが起きましたが、その際、合併相手の企業が航空機保険の再保険をかなり引き受けていたため大

損害を被り、債務超過に陥って破綻したんです。結局、契約を作り直すことになりましたが、仕切り直し後の折衝は統合比率などの問題で暗礁に乗り上げ、さすがに心身ともに疲れ果ててしまいました。この苦境に「心の態度」という力強い言葉に励まされたのです。私は再び相手方と粘り強く合併交渉に臨み、外国の会社と訴訟まで起こして闘いました。結果、新たな合併新会社の誕生を勝ち得たのですが、今から思うと、何とかこの問題を解決したいという気持ちがあった結果だったと思います。これは「心の態度」の教訓になりました。

岡西 経済同友会に対する心のあり方もお伺いできればうれしいです。

櫻田 恐らく日本の強みは「心」です。日本人のメンタリティーって不思議ですね。例えば、東日本大震災のときには、誰も見ていないのに、食料や水の配給では列に割り込まずに並んでいる。W杯では試合に負けてもゴミを拾って帰る。新渡戸稲造の『武士道』の「名誉」に通ずる「名こそ惜しけれ」の精神です。自分の名に恥じることをするなど。精神性は日本人にとってとても大事です。これから世界はグローバルズム、デジタル革命の進展によって格差はもっと広がっていくでしょう。すると、テロが起こったり、治安が悪くなったりするかもしれません。そういうときに日本は間違いなく、世界に対して世の中のあり方を示せると思います。私は「いて欲しい国」日本だけでなく、「いなくて困る国」日本としたい。そのためにも心が大切なんです。

書家

岡西 佑奈

1985年3月生まれ。23歳で書家として活動を始め、国内外受賞歴多数。

